

カンボジアSDGsオンライン研修

- プログラム概要 : カンボジアの学生や社会起業家の方と繋がり、社会問題とSDGsとの関わりについて考える
- 実習先 : ライトハウス・キャリアエンカレッジ株式会社主催、カンボジアSDGsオンライン研修
- 参加人数 : 武蔵野大学からは5名(他大学と合同)
- 学部学科 : 人間科学部社会福祉学科、人間科学部人間科学科、グローバル学部日本語コミュニケーション学部、法律学部法律学科
- 実習期間 : 令和3年8月15日～8月21日
- 本学担当教員 : 山田均教授

私たちは8月15日から8月21日の7日間、カンボジアSDGsオンライン研修に参加しました。15日、16日、21日は午前10時から午後18時までの長時間にわたって全体研修に参加し、そのほかの日は21日のグループ別のプレゼンテーションに向けて各グループで話し合いや準備を進めました。

主な実習内容としてはグループワークを中心にカンボジア学生を交えて、カンボジアの社会問題について学んだり、カンボジアの社会起業家の方々のお話を聞き、質疑応答をするなど日本語、英語、そしてカンボジアのクメール語の三か国語が飛び交うグローバルな研修でした。

カンボジアの社会問題とSDGsとのかかわりについて考え、最終日には一週間かけて学んだことをグループごとにプレゼンテーションをしました。グループのプレゼンテーションは短い期間での準備が求められ、苦勞することも多かったのですがその分達成感がありました。各自グループで研修に参加した目的や、興味深いSDGsの分野について話したことをもとに医療、環境、教育面などに分かれて、カンボジアの課題について学び、どう改善していけばよいか考えたり、改善したことがどうSDGsにかかわっていくのかについて考えました。カンボジアの医療制度など適切な現地のデータを探すのに苦勞しましたが、その分説得力のある発表になりました。

私たちはこの研修に参加して、SDGsに関して以前よりも深く知るきっかけになりました。プレゼンテーションで環境問題について発表した生徒は、プラスチックごみの問題について興味を持ち、ペットボトルの使用を控えたりマイバックを持つなどの行動を心がける、という具体的な取り組みを考えました。

またこれからはSDGsをはじめとする社会問題を自らの問題として捉え、すぐにでも実践できる環境問題から取り組み、その様子をSNSで発信し多くの人に問題を意識するきっかけづくりを促すことを目標とする生徒もいました。

カンボジア学生とのコミュニケーションの難しさはもちろん、多くの他大学、他学年の生徒とのかかわり共通の問題に対する自分の考えを言葉にして共有するのは、とても勇気のいることでした。この研修で社会問題に対する問題意識を得ることができたのは大きな収穫ではありますが、それ以上にグループワークで必要な積極性や発言力、コミュニケーション力を鍛えることができたのが何よりもよかったです。

国境を越えた交流は特別な友情を生み、研修が終わってからも関わっていきたいと思える仲間に出会うことができました。この研修に参加することができ、心から嬉しく思います。